アメリカの就学前教育と小学校教育における
音楽教育プログラム
——ボストンの私立学校の事例から——

American preschool and elementary school music
education program:
From the case of a private school in Boston

石川 ますみ・田中 敏明

Masumi Ishikawa, Toshiaki Tanaka

はじめに

アメリカ合衆国ではk-12(幼稚園年長～高校3年)までの公的教育は義務であり、スクールディストリクト(学区)と呼ばれる地域区分がある。これは幼稚園から高等学校までを運営するために作られた区分であり、日本における児童・生徒の居住地を限定した学校の地域区分と同じである。アメリカでは地域ごとに教育制度や学校制度が異なり、始業日、終業日、休校日、年間授業時間、教科書、進級学年の区切り、カリキュラムの内容、飛び級など各州の裁量により制度が異なるため、教育レベルや方針が異なる。義務教育が始まる年齢は、州により5～7歳(9月2日に5歳)と開きがある上、学年の区切り日が日本のように全国一律4月1日ではなく、ミズーリ州の8月1日から、コネチカット州の1月1日まで、5カ月もの開きがある¹⁾。就学前教育は3～5歳である²⁾。アメリカの幼児・小学校教育は、読み書き、計算の他、自分の意見を表現する力を養うことを重視している。日常生活において園児・児童は、自分の意見を持ち、それを表現し、お互いの意見を尊重することが求められる。教諭は個々の能力に合わせた教育を行い、子どもの持っている個性を尊重しながら学ぶ力を引き出したりきっかけを提供したりすることで、子どもが興味を持った事について自ら深く学ぶ為のサポートを行う。

アメリカの初等教育は、「覚えて記憶力を問う」ものではなく、「可能性を外に引き出し伸ばすもの」であり、自分の得た知識を活用し何ができるかが問われ、考えさせるものである。この「考える力」が育つことにより自立心を促すことが教育と考えられている。この方法は幼稚園から高校まで一貫している。

現在、わが国では、幼児教育と小学校教育の円滑な接続が求められている。今回紹介するアメリカにおける幼稚園と小学校のカリキュラム接続の1つの事例は、わが国でのカリキュラム接続を検討していくための参考になると考えられる。

研究の背景と目的

アメリカの就学前教育と小学校教育における音楽教育プログラムの1例として、ボストン・ケンブリッジ市に所在する私立一貫校の一つであるBB & N (バッキンガム・ブラウン&ニコルズ・スクール) の、幼稚園年中から小学6年の音楽活動カリキュラムを紹介する。学校では、学年はB (Beginners 幼稚園年中)、K (Kindergarten 幼稚園年長)、G1 (Grade One 小学1年) からG6 (Grade Six 小学6年) と表記する。LS (ローワースクール 低学年) はBKG1、G2~G4、G5、G6の三カ所のビルがあり、それぞれ専用の図書館を有する。Bは2クラス共に担任2名ずつに加え専門の教諭(学習専門家、読解専門家、音楽、体育、語学、芸術、図書司書)11名で構成される。Kは上記に加え科学の教諭を含む13名、G1は2クラス各担任1名と上記の専門の教諭に算数の教諭を加えた12名の教諭が在籍する。G2は2クラス各担任1名に専門の教諭を加えた合計11名、G3は2クラス担任計3名に専門の教諭を加えた合計12名。図書司書、読解専門家に代わりアカデミックサポートスペシャリスト(教育支援専門家)が加わる。G4は2クラス担任計3名に専門の教諭を加えた合計16名にフランス語とテクノロジーが加わる。G5は2クラス各担任2名に専門の教諭を加えた合計15名に劇(ドラマ)が加わる。G6は3クラス担任3名に専門の教諭を加えた15名でアカデミックサポートスペシャリスト(教育支援専門家)はない。各学年の授業時間は30、35、40、45、90分など授業内容により臨機応変に対応している。音楽教諭はB、K、G1一人とG2からG6一人の合計2名である。

生徒と教諭の比率はアメリカ全国平均13対1に対しBB & Nは6.7対1である。1学年の生徒数は、B-30人、K~G5-40人、G6-62人で76の国から集う。授業時間はBからG6まで全員朝8時から15時(月、火、木、金曜日)、水曜日のみ8時から14時の週5日制である。

筆者はボストンに在住中、BB & NにてB、K、G1の音楽教諭を務めた。G2の音楽教諭と密に連携を取り、情報の共有や教材・アイデアを提供しあっていた。その経験の中でカリキュラムや教諭独自の授業展開、連続性、系統性、発展性を踏まえ実践を行ってきた。音楽だけにとどまらず、全ての科目に明確な目的と内容が学年ごとに示されている。本稿では、BからG6までの接続と連携の様相を音楽カリキュラムを通して紹介する。

方 法

1. 調査の対象：BB & N (バッキンガム・ブラウン&ニコルズ・スクール) の、幼稚園年中から小学校6年までの2020年~2021年のカリキュラム。
2. 紹介する内容：カリキュラムの中から、音楽活動の目的と音楽を特徴付ける要素及び仕組みに

関する部分を抽出し、和訳して紹介する。

各学年における音楽活動の目的・内容・方法

Bは毎週モールスビルディング内の音楽室で音楽のクラスに参加する。主な目的はグループでの音楽活動と探索を通じ、音楽体験を楽しむことである。また、教室内での空間移動や空間認識、音楽のアイデアを身体表現で表したり、スタイルの違う様々な音・音楽や言葉等を聴いたり、ピッチの有る、無しでの打楽器演奏の探索や、歌を通じた音楽体験に焦点を当てる。活動全体の目的は、生徒が様々な方法を用いて探索し、音楽のアイデアを通じ他の人とコミュニケーションを取り、伝える事である。

Kは、毎週クラス半分のグループごとに音楽のクラスに参加する。活動の中心は歌う、動く、聴く、楽器を演奏する事と、これらを基礎とした即興演奏による音楽創作活動である。Kは、音楽を通じた環境への配慮、多様性、共感などを社会的責任の課題とし取り上げ、音楽の役割を探る。全体を通しての目的は、生徒が様々な方法を用いて自分の音楽のアイデアを探索し、他の人に伝える事である。

G1はクラス全員と、クラスの半数ずつで毎週2回音楽のクラスに参加する。歌による子どもたちの音楽体験を中心に、動く、聴く、楽器を演奏することを通じてメロディーやリズムを創作する。更に1年生のカリキュラムでは積極傾聴、表現力豊かな動き、独自の作曲、音楽形式の理解に焦点をあてたミュージカルの物語への取り組みが行われる。全体を通しての目的は、生徒が様々な方法を用いて自分や他の生徒が創った音楽を伝える事である。

G2はG1と同様に、クラス全員と、クラスの半数ずつで毎週2回音楽のクラスに参加する。音楽活動は歌う、動く、聴く、楽器を演奏するなどの音楽体験を中心に行う。生徒たちは作曲の過程、独自の作品、グループ課題に取り組み、それらを解釈し音楽作品を作成する。全体を通しての目的は、生徒が様々な方法を用いて自分が創った音楽を他の生徒に伝え、他の生徒が創った音楽を聴く事である。

G3はリコーダーと今まで使用していなかったオルフ楽器や打楽器を使い練習、即興演奏、創作音楽を上演する。表1に示されている音楽の要素は様々な音楽ジャンル曲の多様なレパートリーを通し探求される。生徒は様々なスタイルの音楽知識を広げるため傾聴演習に従事し、レパートリーの歴史的背景や文脈の側面を探求する。

G4は自分の声や様々な種類のドラム・その他の打楽器を使用して練習し、即興演奏、創作音楽を上演する。表1に示されている音楽の要素は、様々な先住民及び口頭の伝統に基づく音楽ジャンルを強調しながら多様な曲の特性を通し探求される。生徒は様々な音楽ジャンルの知識を広げるための傾聴演習を行い、レパートリーの歴史的背景を詳しく理解する。

G5は自分の声やウクレレを使用して、練習、即興演奏、創作音楽を行う。表1に示されている全ての音楽の要素は、歌曲や様々なスタイルのウクレレ演奏に基づく音楽ジャンルを強調しながら、

多様な曲の特性を通して活用される。ウクレレはメロディック、ハーモニック、コード伴奏ベースの楽器として演奏される。生徒は様々な音楽スタイルの知識を広げるため傾聴演習を行い、レパートリーの歴史的背景を詳しく理解する。

G6は自分の声や midi キーボード、及びデジタルソフトウェア・サウンドトラックを使用し練習、即興演奏、創作音楽を行う。生徒はクラシック音楽だけではなく様々なスタイルの音楽知識を広げるため傾聴演習を行い、レパートリーの歴史的背景や文脈的側面を詳しく理解する。生徒は世界中の様々な人気のある電子音楽ジャンルを聴き、自分の感性を刺激し作曲を行う。

表1 音楽の要素と活動 (音名は英語表記とする)

B : 幼稚園年中 K : 幼稚園年長 G1~G6 : 小学1年~6年

	リズム (律動)	メロディー (旋律)	ハーモニー (和声)	フォーム (形式)	表現力	音色
B	<ul style="list-style-type: none"> 動きやボディーパーカッションを通して拍を体験する ピッチ (音高・音程) のない打楽器を演奏する 様々な旋律を動く活動を通し体験する 創作されたリズムカルな音を歌う (スキヤット) 	<ul style="list-style-type: none"> 高低を区別する 限られた音域内で歌うだけでなく上行/下行を経験する ボーカルトーンの生成を探索する グループで曲のレパートリーを発展させる 歌って曲を創作する方法を探る ピッチのある楽器を探索する 	<ul style="list-style-type: none"> 調性の違いを体験する 楽器伴奏付きの歌唱/チャント (唱え) 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ/異なる体験 ゲーム、動き、楽器演奏を通じた歌のパターンを体験する 	<ul style="list-style-type: none"> 空間を探索する テンポ、ダイナミックなコントラスト (対比)、音色のコントラストを体験する ピッチのないパーカッションの技法を体験する 物語、韻、詩に添える動きや音楽を創作する 	<ul style="list-style-type: none"> ピッチのないパーカッションを特定する 声の質を区別する (話す / 歌う / ささやく / 叫ぶ) ダイナミックスを示す (大音量 / 静音)
K	<ul style="list-style-type: none"> 動きと楽器演奏を通して拍を示す 録音した音楽に合うピッチのある楽器とピッチのない楽器でリズムを創作する 記号を用いてリズムパターンを記す 	<ul style="list-style-type: none"> 動きを通してメロディーの形を体験する 教室にある楽器でメロディーを即興演奏する 旋律の形を紙に書き留め、旋律の形とジェスチャーを読み取る 木琴/鉄琴/グロッケンシュピールなどの楽器を探索する 	<ul style="list-style-type: none"> 調性の違いを体験する 先生が伴奏するオスティナート (執拗音型・反復) と一緒に歌う/チャント 	<ul style="list-style-type: none"> フレーズ (旋律の一区切り) を体験する ABABの パターンを体験する 基本的なパターンにしたがって作曲を編成する 	<ul style="list-style-type: none"> ピッチ、拍、リズム、速度、強弱に関連した動きから空間を通して探索する 経験 - 速度、強弱、音色のコントラスト - クラスのテーマに関連するグローバルな音楽 ピッチのない打楽器の技術向上 	<ul style="list-style-type: none"> 日用品やリサイクルされた材料を調査し音質の説明をする 打楽器だけでなくオーケストラで演奏される楽器にも精通する
G1	<ul style="list-style-type: none"> 拍をタ、ティティとして識別する 音と沈黙を区別する 沈黙を休符と特定する 生徒が開こえた音や自ら生み出す音楽の中に存在するリズムの質を分析し説明する 	<ul style="list-style-type: none"> 動き、記譜された記号、手のジェスチャーなどを通して旋律の形を示す 幅広い音域のピッチで歌を歌う グロッケンシュピールでペンタトニック音階を演奏する ピッチのある楽器でメロディーを即興演奏する 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な袍 (パチ) の技術向上 木の音板で単純な和音を実演する オスティナートを体験する 	<ul style="list-style-type: none"> フレーズを特定する 音楽の始まりを識別する 繰り返し記号を特定する 基本的な音楽形式 (ABA、ロンド、パリエーション、呼びかけと答え) を識別する 	<p>表現力に関する音楽の要素と活動は無い</p>	<ul style="list-style-type: none"> 物語、歌、詩に添える適切な音色を選択する ピッチのない打楽器 (木製 / 金属 / 皮などの素材) を分類する ピッチのある打楽器を分類する

アメリカの就学前教育と小学校教育における音楽教育プログラム

G 2	<ul style="list-style-type: none"> ・2分音符、全音符、4分音符、8分音符、休符等の実演 ・拍子記号を認識する (2、3、4拍子) ・ボディーパーカッションを体験する 	<ul style="list-style-type: none"> ・メロディーの輪郭を実演する ・適切な声楽技術の実演 ・ピッチのある楽器で独自のメロディーを即興・作曲する ・リコーダーでB(シ)-A(ラ)-G(ソ)のメロディーを読譜、記譜する 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切なバチの技術を発展させる ・オスティナートと簡単なコードを実演する ・長調/短調を体験する ・輪唱で歌を歌う 	<ul style="list-style-type: none"> ・フレーズを実演する ・コーダ、繰り返し、ABC形式、ロンド、バリエーション、呼びかけと答え、を特定する ・小節線、二重線、調を特定する 	<p>表現力に関する音楽の要素と活動は無い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オーケストラ楽器の種類を特定する ・世界中の様々な楽器に精通する ・特定の枠組の中で音、リズムを取り混ぜた様々なスタイルを用い、グループでオリジナル曲を作曲する 		
	リズム	ピッチ (音程)	メロディーとハーモニー	フォームと作曲	表情	強弱	速度	音色
G 3	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な拍子で拍を示す ・読譜、記譜を識別する - 2/4 3/4 4/4 6/8 ・コモンタイム 4/4=C ・カットタイム 2/2=c[♯] ・4分音符、8分音符、2分音符、付点2分音符、全音符、と休符 ・2年生でのリズム表現方法から、カウントベースのリズミカルな読譜への移行 	<ul style="list-style-type: none"> ・ト音記号の読譜と記譜 ・適切なリコーダーテクニックを用い、音符を読み練習し演奏する ・-G(ソ) A(ラ) B(シ) C(高いド) D(高いレ) E(ミ) F(ファ) (任意)C(ド)、F#(ファ#)、E(高いミ)、 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソルフェージュを利用してト音記号の音符と長音階を特定する ・メロディーパターンを作成し即興で演奏する ・基本的なハーモニーと楽器伴奏を学ぶ ・適切な技術を使い、声や教室にある様々な楽器を用いて芸術的な旋律のフレーズを示す 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な音楽形式を識別、認識、創作する：ソナタ、ロンド、テーマとバリエーション、コーラスと詩、呼びかけと答え、輪唱/カノン、オスティナート ・作曲と即興を多種類の楽器用に編曲する 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を作る ・繰り返し、D.C/D.S、アルフィーネ/アルコーダ、フェルマータを特定する ・レガートやスラー、スタッカートやアクセントなどの様々な表情を特定し演奏する 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な音楽の強弱を特定し認識し演奏する ・フォルテ、ピアノ、フォルティシモ、ピアノニッシモ、メゾフォルテ、メゾピアノ、クレッシェンド、デクレッシェンド、リタルダンド 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な音楽の速度を特定し認識し演奏する ・アレグロ、アンダンテ、アダージョ、モデラート、レント、アツチエラント、ディミニユエント 	<ul style="list-style-type: none"> ・西ヨーロッパの古典的な楽器の分類を特定するために、見て聴いて話し合う (金管楽器、木管楽器、打楽器、弦楽器)
	リズム	メロディーとハーモニー		フォームと作曲	表情、強弱、速度		音色	
G 4	<ul style="list-style-type: none"> ・シンコペーション、ポリリズム、オスティナート、呼びかけと答え、即興などのリズミカルな概念を探る ・3年生で学んだ拍子記号とリズム構築の概念を聞き実演し特定する - 拍子記号12/8 -16分音符、8分音符と16分音符のバリエーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・ト音記号、長調/短調/メジャーペンタトニック音階などソルフェージュを利用して特定する ・二部または三部構成の音楽と多様な楽器伴奏を学ぶ ・適切な技術を使い、声や教室にある様々な楽器を用いて芸術的な旋律のフレーズを示す ・ソルフェージュを利用してト音記号で記した調と、メロディーの一節を読譜し特定する ・様々な歌を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数パートの音楽と器楽曲を聞き識別し学び演奏する ・作曲と即興を多種類の楽器用に編曲する 	<ul style="list-style-type: none"> ・G3で学んだ形式や音楽の表情、強弱、速度を継続して学び、音楽文学も模索し理解する ・生徒は傾聴演習、記憶指導、音楽への直感、探求された分類の即興的な側面に焦点を当てる 	<ul style="list-style-type: none"> ・西ヨーロッパの古典的な楽器の分類を特定するために、見て聴いて話し合う (金管楽器、木管楽器、打楽器、弦楽器) 			

	リズム	メロディーとハーモニー		フォームと作曲	音色	
G5	<ul style="list-style-type: none"> ウクレレ演奏における強い拍と細分化の感覚でかき鳴らす事を学ぶ ウクレレ演奏における様々な拍駆動及びシンコペーションのリズムカルなかき鳴らしパターンを学ぶ ウクレレに弱音を締め付け、固定したり取り外す事を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ウクレレの適切なテクニックと二部構成のボーカルレパートリーを用い発声する 適切なテクニックと芸術的なフレージングを用いてウクレレのメロディック／ハーモニックフレーズを学び、実演し即興演奏する 様々な長調・短調の曲で読譜を学び、演奏する ウクレレを用い、長調、短調、+7、+9、サスペンションコードなどを探究する ウクレレを用い様々な和声進行を長調、短調で探究する 		<ul style="list-style-type: none"> 多構成の声楽曲や楽曲を聴き、識別し、学び、演奏する 声楽曲とウクレレを用い歌詞、メロディック／和声進行を創作し即興演奏する 	<ul style="list-style-type: none"> 西ヨーロッパの古典的な楽器の分類を特定するために見て聴いて話し合う(金管楽器、木管楽器、打楽器、弦楽器) 	
	リズム	メロディーとハーモニー	フォームと作曲	音色	コーラス／ミュージカル	オーケストラ
G6	<ul style="list-style-type: none"> G3～G5で探究された様々なリズムの要素を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ミディキーボードのサウンドトラックを使用しメロディーと和声のフレーズを創作する 長調、短調を用い創造的な曲を作曲する ミディキーボードを使用し、長調、短調の和声進行を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 傾聴し識別し学び、多構成の声楽曲と楽曲への電子作品を創作する 	<ul style="list-style-type: none"> 西ヨーロッパの古典的な楽器の分類を特定するため見て聴いて話し合う(金管楽器、木管楽器、打楽器、弦楽器) サウンドトラックの作曲における電子音の様々な組み合わせを探る 	<ul style="list-style-type: none"> G5、G6全ての生徒は、ブリックビルディングで行われる合唱アンサンブルに参加する 生徒は12月に上演されるウインターコンサートで演奏を行う G6は春にミュージカル作品を上演するため、演劇の先生と一緒に1月の初めからリハーサルを行う 	<ul style="list-style-type: none"> LSオーケストラで楽器を学ぶ生徒は、ソロ(独奏)の練習や個人レッスンとは異なる貴重な体験を提供される。生徒は、オーケストラで演奏するように招待され、奨励されている 学校の伝統行事の一つであるオーケストラで演奏することは、私たちのコミュニティにおける、多くの重要な役割を果たしている オーケストラのリハーサルは授業開始前、金曜日の朝に行う。そしてLSコンサートや指定された集会で演奏する。

結果と考察

表1は音楽を特徴付ける要素とその要素に関わる活動を学年ごとに示したものである。日本の幼児教育では、ねらいや内容が学年別に表示されておらず、ねらいや内容は「音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう(幼稚園教育要領)」と、心情や態度の育成に焦点を当てた方向目標であり、具体的に何を育てるのか、経験させたい活動とはどのようなものがはっきりしない。そのこともあり、統一された指導計画や具体的なカリキュラムは存在しない。一方で、小学校では、小学校学習指導要領において、教科、学年ごとの目標・内容が示され、教材としての教科書が準備されている。目標や内容も、たとえば小学校1年生で「創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身につける」など、知識、技能の習得を目指した具体的な達成目標が設定されている。そのため、領域「表現」から科目「音楽」への連続性、系統性、発展性を見つける事は容易ではない。強いて言えば、幼児期に様々な音を感じたり気付くことで感性を育み、歌ったり楽器を使う楽しさを育て、これを土台にして小学校の音楽教育が展開されるということになる。これに対してBB&Nでは、音楽教諭がB(日本の幼稚園年中組に相当する)から小学校まで連続して授業を行うため、個々の技量やアイデアに沿った授業を展開する事が可能となる。教材は固定しておらず、多様性を重視し、グローバルな言語を用い世界各国の歌や曲、楽器を教材として取り扱い、音楽だけにとどまらず総合的な授業展開が行

われる。固定教材がないことで、ねらいを達成するために様々な方法を用いながら音楽を楽しみ習得していくことが可能となる。教諭は音楽要素の分類や教育内容の展開について工夫し、生徒が音楽理論を理解しながら復習を繰り返す事で習得度の確認を行っている。教育活動の充実を図るため、BからG6までの8年間の連続性を考慮し、発達に即した豊かな学びや経験が得られる事で自分に自信を持つことが出来るようになる。生徒は一斉に同じ音楽活動を行うのではなく、即興演奏や創作活動が音楽基礎を学ぶと同時並行で行われ、自分の思いや作品を発表し相手に伝えるという目的を達成する事が可能となる。この表現活動を多角的にアプローチすることにより、表現したい自分の思いが具体的になり、表現の深まりへと繋がっていく。音楽は目に見えない抽象的なものである。3つの音楽教育法（ジャック＝ダルクローズ、コダーイ、オルフ）の総合的なアプローチを効果的に組み合わせることにより、創造性、動き、器楽練習、記譜、読譜を学習する事で、思考力、集中力、歌唱力、聴取力、読譜力などを無理なく段階的に身につけることが可能となる。音楽を通し豊かな感受性を育むことは、想像力をふくらませ創造性を養う事にも繋がる。

日本では小学1年で鍵盤ハーモニカ、3年でリコーダーの楽器練習を行うが、BB & NではG3でリコーダー、G5でウクレレ楽器練習を行う。教室での席の配置は教諭と生徒が対面で向き合うのではなく、お互いの様子や息づかいが伝わり、全体が見合えるように円形で座る。楽器練習の向上・上達のため、音楽の宿題はG3-週2回10分のキーボード練習、G4-週4回10分以上のリコーダー練習と週2回15分以上のキーボード練習が他の課題と共に課せられている。宿題の責任は保護者が持ち、保護者に対して支援がなされる。園児・児童への評価は11月、3月の年に2回、保護者に子どもの学力の向上、教育の成果を報告する保護者面談が行われる。レポート評価は、到達度評価として、何が達成出来たか、育ったかを具体的に肯定的な文章で綴られ、年に3回渡される。G6の2学期より到達度を評価するグレード評価へと移行する。

毎年12月と5月にはコーラスやオーケストラコンサートが保護者も招いて開催される。G2～G6はオーケストラの練習も任意で週に一度行なわれ、卒業式に演奏される。音楽は特殊なものではなく勉強やスポーツと同じように日課に取り入れられ、いろいろな活動と交互に繰り返される。音楽教諭は技術向上よりも人間的・文化的にバランスの良い教育が求められる。アメリカにおける音楽教育は芸術文化の理解や、生涯にわたり音楽を愛好する信条を育成することに貢献している。

日本で2018年から施行された幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育保育要領では、幼児教育において、「知識・技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力の基礎」、「学びに向かう力、人間性」を育てることが明記された。また、幼児教育と小学校教育との連携・接続も重要な教育課題の一つとなっている。このことから、アメリカの就学前教育と小学校教育における音楽教育プログラムは、幼児教育のカリキュラムはどのようなものであったらよいか、どのように小学校教育につなげていくかを検討する上で貴重な示唆を与えてくれる。

今後の課題

アメリカと日本では、教育観や価値観、これまでの教育の積み重ねなどが異なることから、アメリカで行われている教育をそのまま日本の教育に置き換えることはできない。日本とアメリカ以外の諸外国の音楽教育プログラムの実態も把握し、日本の幼児教育と小学校教育にとって適切な音楽教育とはどのようなものか、両者をどのようにつなげていけばよいのかについて検討したい。

引用文献

- 1) <http://www.ecs.org/clearinghouse/58/27/5827.htm> 2021年8月12日10時30分閲覧
- 2) <http://www.uis.unesco.org/Education/ISCEDMapping/pages/default.aspx> 2021年7月15日13時閲覧

参考文献

- <http://www.bbns.org/academics/lower-school-academics/curriculum-overviewskill-map>
<https://www.worldatlas.com/articles/largest-school-districts-in-the-united-states.html>
<https://ja.wikipedia.org/wiki/アメリカ合衆国の学区>
<https://www.bbns.org>
https://www.nier.go.jp/kaihatu/pdf/hyouka/r020326_pri_ongaku.pdf
<https://www.onnsho.ed.jp/education/curriculum/>
厚生労働省. (2018). 保育所保育指針：フレール館.
文部科学省. (2018). 幼稚園教育要領：フレール館.
文部科学省. (2018). 小学校学習指導要領解説・音楽編：株式会社東洋館出版社.
小原光一・飯沼信義・浦田健次郎 (監修) 他14名. (2021). 小学校教科書 小学生の音楽1-6：教育芸術社.
新実徳英 (監修) 他20名. (2021). 小学校教科書 音楽のおくりもの1-6：教育出版.
千葉武夫・那須信樹 (編). (2019). 教育・保育カリキュラム論：中央法規.
エミール・ジャック＝ダルクローズ (著). (2016). リズムと音楽と教育：全音楽譜出版.
泉 千勢 (編著). (2017). 世界の幼児教育・保育を学ぶのか：ミネルヴァ書房.
北野幸子 (編著). (2019). 乳幼児カリキュラム論－教育課程・全体的な計画の編成と評価：建帛社.
中島 寿・高倉弘光・平野次郎 (著). (2019). 音楽の授業で大切なこと：東洋館出版社.
高倉弘光 (編著). (2019). 音楽授業の「見方・考え方」：明治図書出版株式会社.
吉富功修・三村真弓 (編著). (2015). 幼児の音楽教育法：ふくろう出版.